



2024年 2月 15日

一般社団法人ザ・グローバル・アライアンス・
フォー・サステイナブル・サプライチェーン
和田 征樹

Communication on Engagement

1. 代表理事による継続的時事の表明

ステークホルダーの皆さまへ

私は、ここに一般社団法人ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステイナブル・サプライチェーンが国連グローバル・コンパクトの人権、労働、環境、および腐敗防止に関する10原則を支持することを再度表明いたします。

弊団体はこれまでどおり企業様（弊社クライアント）が取り組むサステナビリティ活動をサポートして参りました。今後も国連グローバル・コンパクトおよびその原則を基盤に、段階を経て継続的に課題解決に取り組み、長期的な成功を確固できるよう努めて参ります。

この Communication on Engagement にて我々の取り組みについてご報告致します。

また弊団体ウェブサイトでも、弊団体の取り組みを積極的にステークホルダーの皆さまに紹介しておりますのでご確認いただければ幸いです。

2. 取り組み状況

弊団体では会員の企業様に“ビジネスと人権”に関する役員・従業員の研修やセミナーを行ったり、それぞれの企業のサプライチェーンに行き施設を視察したり、直接労働者インタビューをして、GCNJの10原則に関連する課題の有無を調査（人権デューデリジェンス）しております。また、現地調査において改善点があった場合には企業に報告し、解決するためのアドバイスを提供しております。また、以前から実施していたグリーンバンスメカニズムを弁護士と協同して新しく始めるために、企業様と意見交換会を行い、より機能する仕組みとなるよう取り組んでおります。

弊団体では、会員様向けに定期的にセミナーを開催し、またサステナブル経営についての座談会を設ける等、持続可能な世界を実現するための知識を深められるよう努めておりま



す。

“ISSARA GLOBAL FORUM 2023”や“第12回国連ビジネスと人権に関する年次フォーラム”にも参加し、ビジネスと人権に関する国際的に注目されているテーマや課題、知識を深めるとともに、会員企業様にも共有いたしました。また、GCNJ関西分科会にも参加しGCNJ会員企業の取り組みを拝聴し、多方でイニシアチブをとっていただけるよう我々の情報及び知識も日々アップデートして行くように取り組んでいます。

3. 成果の測定

これまでの活動より、昨今、人権DDやグリーンバンスメカニズムが注目されるようになってきています。CSRガイドラインの策定よりも、人権DDや苦情処理メカニズムについて問い合わせを受けることが多くなり、我々の会員が企業として何をするべきなのか、サステナブルな運営をしていくには、どうしていけばいいのかを考え、真剣に取り組むを始めていると感じます。一方で、人権DDやサステナブルな活動に取り組みが出来ない企業や、最低限の取り組みしかできてない企業も多いので、中小企業を含めてより日本の企業が世界スタンダードに近い取り組みができるようにイニシアチブをとっていきます。